

卒業式（3月1日）での校長式辞から抜粋

～卒業生への餞の言葉～「強い者は美しい」

ここで、新たな生活に旅立つ皆さんに、餞の言葉を送りたいと思います。それは、「強い者は美しい」という言葉です。

先月、韓国で行われた平昌五輪では、日本人選手の過去最高のメダルラッシュと大活躍に、日本中が大きな歓喜と感動に包まれましたが、この言葉は、約90年前のアムステルダム五輪、陸上競技・三段跳で、日本人で初めてオリンピック金メダリストとなった織田幹雄の有名な言葉です。

「強い者は美しい」。私は学生時代、「強い者」とは、「競技力の高い者」であり、「美しい」とは、「勝利者を称え、表すもの」と解釈していました。確かに、競技力の高い者の身体は鍛え上げられて美しく、勝利者は輝いています。しかし、織田幹雄は、身長160cm前後という小さな体のハンディをカバーするために、毎日何十回、何百回と天井に頭がとどくかのように高く跳び続けて、練習に励み・努力を重ねて、その結果、金メダルを獲得したのです。しかも、記録は15m21cmでした。昨年夏の南東北インターハイでの三段跳の優勝記録が15m40cmですので、最新の練習方法やシューズ、スパイク、グラウンドなどの条件を考えれば、この約90年前の記録は、実に驚異的といえます。したがって、「強い者」とは「目標に向かって努力を重ねた者」であり、その「十人十色のプロセス・過程が美しい」ということです。

平昌五輪で大怪我を乗り越えて、冬季五輪2大会連続の金メダルに輝いた羽生結弦選手の演技や今年大リーグに移籍した大谷翔平選手の投球フォーム・バッティングフォーム、錦織圭選手の正確なストロークなどにも共通することが言え、どれも高みを目指して挑戦し続け、努力を重ねたことで磨き上げられ完成したものです。

これはスポーツ以外にも言えることです。将来の自分らしい生き方のため、しっかりビジョンを持ち、失敗を恐れず積極果敢に挑戦し、努力し続けることが大切なのです。時には困難な場面に直面することもあります。一つひとつを乗り越えて、その経験が人生の大きな財産となり、「強い人間・美しい人間」をつくっていくのです。ぜひ、皆さん方にも、自らの力で「自分らしく・強く・美しい生き方」を追い求めてもらいたいと思います。